

特別寄稿

長野県産のクゲヌマランとヤビツギンラン

早川 宗志*

Cephalanthera longifolia and *C. erecta* f. *pelorica* in Nagano Prefecture, Japan

Hiroshi Hayakawa*

長野県には、ラン科キンラン属は4種（キンラン、ギンラン、ユウシュンラン、ササバギンラン）が分布するとされてきた（長野県植物目録編纂委員会 2017）。著者の早川は、信州大学自然科学館（SHIN）において、ラン科キンラン属の標本を再同定した結果、長野県から初記録となるクゲヌマラン *Cephalanthera longifolia* (L.) Fritsch およびヤビツギンラン *C. erecta* (Thunb.) Blume f. *pelorica* H. Hayak. et Suetsugu を見出した（早川ほか 2023）。その後、長野県環境保全研究所植物標本庫（NAC）に所蔵されるキンラン属標本の再同定を実施した。本稿では、NAC および SHIN の標本調査および観察記録に基づいて、長野県内のクゲヌマランとヤビツギンランの分布を報告する。

クゲヌマランは、落葉広葉樹林やクロマツ林に生育する多年草である（遊川 2015a, b）。かつては本州の太平洋側海岸の砂質のクロマツ林下に生え

るとされ、ギンランの変種や別種 *C. shizuoi* F. Maek. などの見解も示されてきた（前川 1971、里見 1982）。しかし、現在ではユーラシア大陸の温帯域～アフリカ北部まで広く分布し（遊川 2015a, b）、国内では北海道から九州の海岸のみならず内陸部にまでに分布することがわかっている。本種は、ギンランやササバギンランに類似するが、唇弁の距がきわめて短いこと、葉が革質であること、葉のしわが少なく葉脈が目立たないことなどで識別できる。

NAC には0点、SHIN には7点の長野県産クゲヌマランが所蔵されていた（図 1A、早川ほか 2023）。SHIN のクゲヌマラン標本のうち4点には、井上健氏によって“唇弁の距が短い”“唇弁の距はほばない”などと台紙上に鉛筆で書かれていた（図 2A-D）。このことは、井上氏がクゲヌマランの形態的特徴をもつ標本を認識していたものの、当時の分布や生態情報との不一致から、クゲヌマランと同定

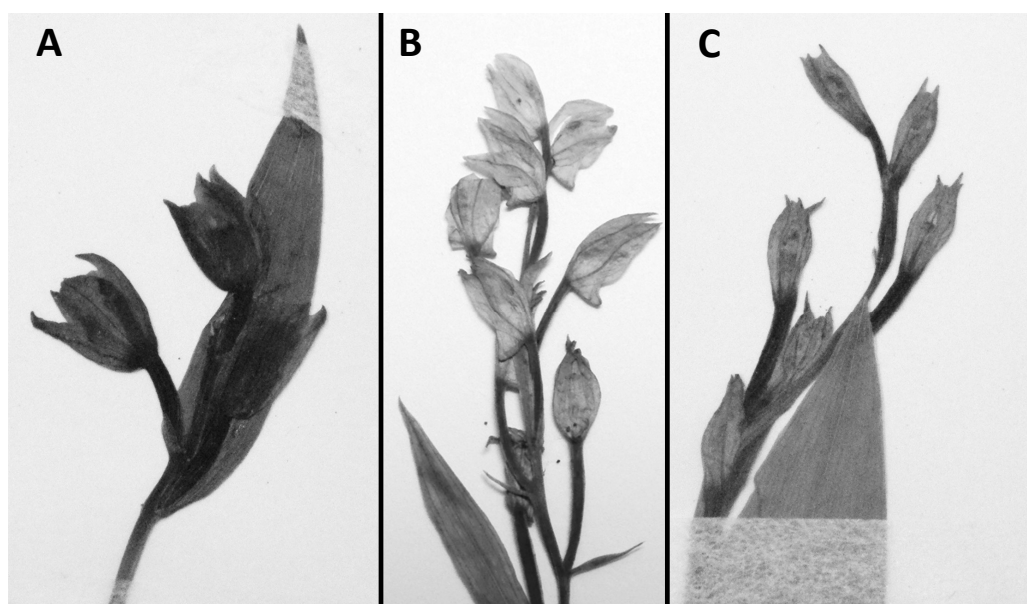


図 1. クゲヌマランおよびギンラン、ヤビツギンランのさく葉標本の花序。

A: クゲヌマラン（長野県黒澤方面、寺島虎男 s.n., 1966 年 6 月 5 日、SHIN）、B: ギンラン（静岡県静岡市葵区、湯浅保雄 YY074870、2013 年 5 月 13 日、ふじのくに地球環境史ミュージアム）、C: ヤビツギンラン（SHIN）。

* ふじのくに地球環境史ミュージアム 〒422-8017 静岡県静岡市駿河区大谷 5762

Corresponding author: hiroshi1_hayakawa@pref.shizuoka.lg.jp

することは見送ったと推察される。

次に、ヤビツギンランは、母品種であるギンランの唇弁が花被片化した品種である（柳川 1982、Hayakawa et al. 2020）。本品種は、日本国内では北海道、本州、四国に分布する（Hayakawa et al. 2020、八木ほか 2022、早川ほか 2023）。

NAC には 11 点（うち長野県産 7 点）、SHIN には 7 点（うち長野県産 6 点）のヤビツギンランが所蔵されていた（図 1C、図 3、証拠標本を参照、早川ほか 2023）。井上氏は、SHIN の 3 標本の台紙に“唇弁が花弁化”“距がない”と鉛筆書きしており（図 2E-G）、ペロリア変異体と認識していたことは間違いない。アノテーションの日付から 1994 年頃に記述されたと推測される。NAC には 1 枚の標本台紙上にヤビツギンランとギンランの両品種が張り付けられていた標本が 3 点あった。そのため、長野県内では両品種が同所的に生育している箇所が複数あるものと考えられる。

また、ヤビツギンランは長野県下水内郡栄村秋山郷、長野県茅野市横谷溪谷からも観察されている（図 4）。

上述したクゲヌマランとヤビツギンランの記録は長野県北部から多く見出されている。今後、長野県内の他地域においても 2 分類群が見いだされる可能性があるため、注意を喚起したい。

証拠標本（NAC 所蔵）

Cephalanthera erecta (Thunb.) Blume f. *pelorica* H.Hayak. et Suetsugu（ヤビツギンラン）：

秋田県：鹿角市不老倉、*R.Fujiwara s.n.*、1988 年 6 月 19 日（062751）、協和町宇津野、*R.Mochizuki s.n.*、1984 年 6 月 9 日（069573）

岩手県：盛岡市姫神山、*R.Mochizuki s.n.*、1962 年 6 月 1 日（036247）、姫神山、*R.Mochizuki s.n.*、1961 年 5 月 30 日（036249）

長野県：長野市逆谷池、伊藤静夫 *s.n.*、2011 年 6 月 7 日（162348）、長野市北郷研究所、永井茂富 *s.n.*、2009 年 6 月 10 日、長野市浅川雲園、永井茂富 *s.n.*、2007 年 5 月 20 日（146398-146399）、MSE 平林東方、花里弘 *s.n.*、1988 年 6 月 5 日（150063）、長野市飯綱高原、永井茂富 *s.n.*、2009 年 6 月 2 日（156113）、伊那市、中山洸 *s.n.*、1969 年 5 月、179330

標本閲覧を許可頂いた NAC の尾関雅章氏、荒井沙由理氏、SHIN の東城幸治氏、長野県内のヤビツギンランの情報もしくは写真をご提供いただいた藤田淳一氏、大森威宏氏、菅沼広美氏、新井二郎氏、渡邉修氏に感謝します。

摘要

NAC、SHIN の標本調査および現地情報から、ラン科キンラン属のクゲヌマラン *Cephalanthera longifolia* (L.) Fritsch およびギンランのペロリア品種ヤビツギンラン *C. erecta* (Thunb.) Blume f. *pelorica* H.Hayak. et Suetsugu の長野県における分布を報告した。

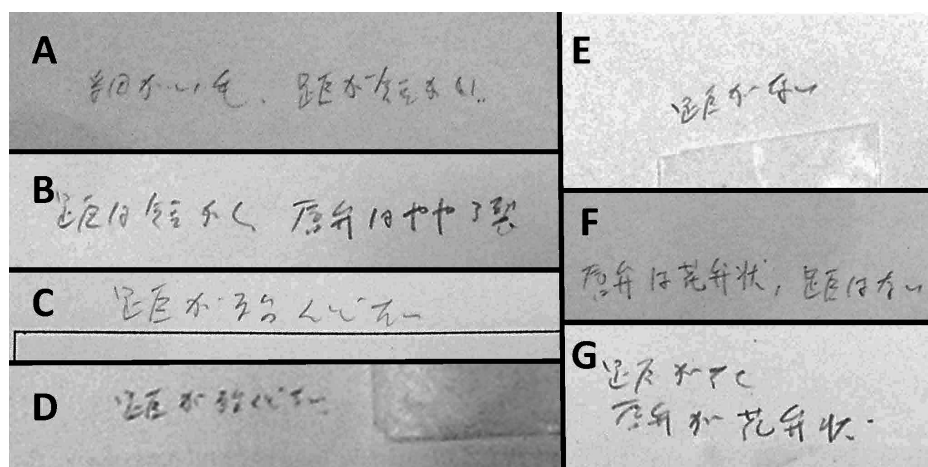


図 2. SHIN 所蔵のクゲヌマラン (A-D) およびヤビツギンラン (E-G) 標本の鉛筆書き。

A：松本市、奥原弘人 *s.n.*、1975 年 5 月 15 日、B：長野市、和田清 012282、1981 年 5 月 14 日、C：黒澤方面、寺島虎男 *s.n.*、1966 年 6 月 5 日、D：上伊那郡、渡邊修 *s.n.*、1992 年 5 月 17 日、E：下高井郡、横内斎 07102、1931 年 6 月 5 日、F：福井県大野郡、清水建美 29751、1984 年 6 月 3 日、G：高遠町、柄山祐希 *s.n.*、1959 年 6 月 3 日。

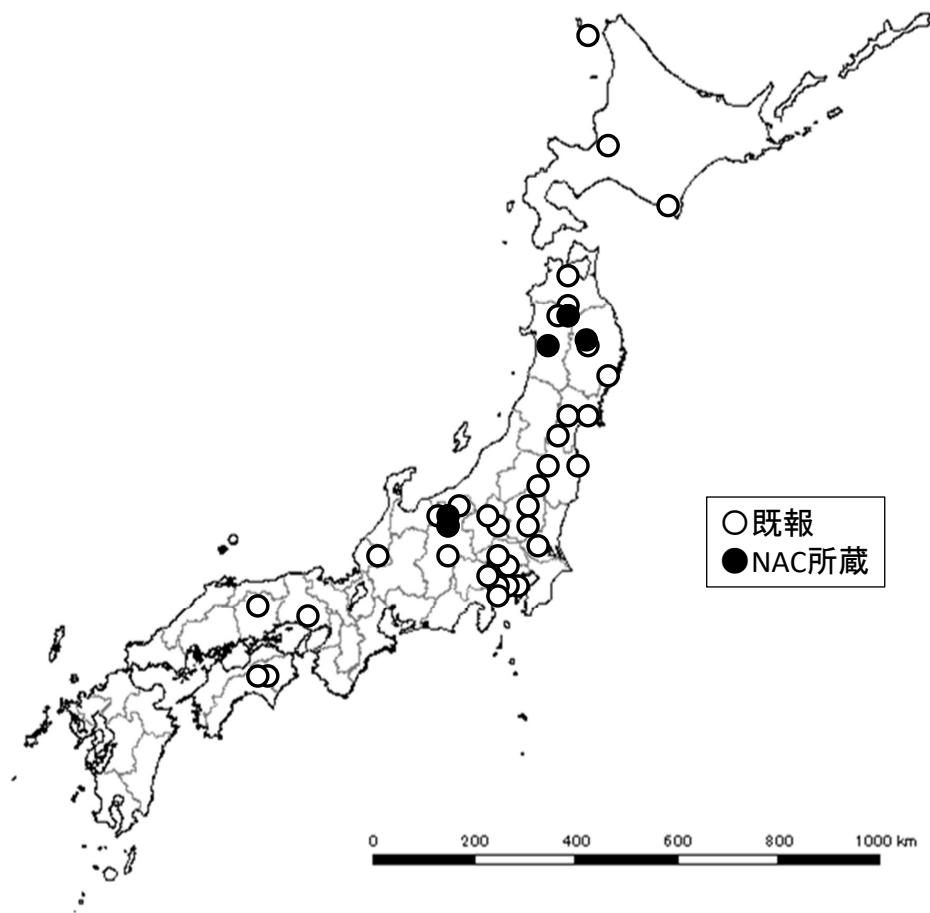


図 3. ヤビツギンランの分布。

○は既報 (Hayakawa et al. 2020、八木ほか 2022、早川ほか 2023)、●は NAC 所蔵を示す。



図 4. 長野県で撮影されたヤビツギンラン。

A: 長野県下水内郡栄村秋山郷(2022 年 6 月 12 日、新井二郎撮影)、B: 長野県茅野市横谷溪谷(2018 年 6 月 7 日、新井二郎撮影)。

引用文献

- 長野県植物目録編纂委員会（2017）長野県植物目録ー長野県植物誌改訂に向けてのチェックリストー（2017年度版）. 256p.
- Hayakawa, H., Suetsugu, K., Fujimori, S., Shitara, T., Yokoyama, J. & Yukawa, T. (2020) A new peloric form of *Cephalanthera erecta* (Orchidaceae) from Japan. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica* 71: 163–169.
- 早川宗志・瀧崎吉伸・藤田淳一・大森威宏（2023）長野県新記録のクゲヌマランおよび中部地方新記録のヤビツギンラン. 植物研究雑誌 98: 217–221.
- 前川文夫（1971）原色日本のラン. 495p. 誠文堂新光社, 東京.
- 長野県（2014）長野県版レッドリスト～長野県の絶滅のおそれのある野生動植物～植物編 2014. 225p.
- 里見信生（1982）ラン科. 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫（編）. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類: 187–235. 平凡社, 東京.
- 清水建美（1997）長野県植物誌. 1700p. 信濃毎日新聞社, 長野.
- 八木龍太・岡田英士・末次健司（2022）ヤビツギンラン（ラン科）を兵庫県に記録する. 植物地理・分類研究 70: 183–185.
- 柳川定晴（1982）ギンランの一変異個体について. 神奈川自然誌資料 3: 15–16.
- 遊川知久（2015a）日本のランハンドブック 1 低地・低山編. 135p. 文一総合出版, 東京.
- 遊川知久（2015b）ラン科. 大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司（編）. 改訂新版日本の野生植物 1: 178–231. 平凡社, 東京.